

必ずご確認ください！！

バッテリーの過放電による事故が多発しています

夜間、魚群探知機などの電源を入れたままにしていたため、バッテリーが上がりエンジンが起動出来ないという海難が多発しています。

バッテリーの寿命は平均して2年～5年とされているが、

使用状況により必ずしも2年～5年で寿命を迎えるとは限らない！！

シーズンを迎えるにあたり、

- 本体に割れなど生じていないか
- 液の量は十分か
- 端子に緩みはないか、汚れていないか
- 電圧は低下していないか

を点検してください。

また、万が一に備えてジャンプスターターを備えておくことをお勧めします。

なお、夜間停泊して釣りをする場合、停泊灯は必ず点灯するようにしてください。

安心安全なレジャーを楽しみましょう！

○トラブルシューティング

機関トラブル発生時はトラブルシューティングを参考に、不具合の原因を探りましょう。



衣浦海上保安署



船外機
(4ストロークエンジン)



船内機・船内外機
(ディーゼルエンジン)

プレジャーボートで釣り場に到着。エンジンを切っ
て、作業灯、魚群探知機等を使用して釣りを楽しみ、
いざ帰ろうとした時、バッテリーがあがっていて
エンジンがかからず帰れない、...

バッテリーあがりで困らないために・・・

・事前にバッテリーのチェック

十分な電圧があるか
端子に緩みはないか
バッテリー液が十分にあるか

・万がーのために予備バッテリー、
ジャンプスターターを用意

もしバッテリーがあがっても自ら復旧
できるように用意しておくと便利

・ポータブル発電機を用意

バッテリーの電力を使わないようにする

『自船の安全確保3ヶ条』

- 1 発航前
機関や燃料等の点検の実施
- 2 航行時
常時見張りの徹底
- 3 故障時等の備え
救助支援者の確保

